



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

34

DOKI DOKI
たいむとらべらー

県北の名城、浄法寺城

浄法寺総合支所から西側へ500mの位置に、室町時代から戦国時代にかけて浄法寺氏の居城であった浄法寺城があります。

浄法寺氏については諸説ありますが、「南旧秘事記」という書物の記述により、鎌倉時代、源頼朝の重臣であった畠山重忠の弟重宗が二戸地方を治めることとなったとき、跡継ぎがいませんでした。そこで鎌倉の「浄法寺」という寺(現存はしていません)の僧侶をしていた重忠の末子の重慶が家を継ぐこととなり、「浄法寺氏」を名乗るようになりました。この浄法寺氏が「浄法寺」という地名の由来とされています。

城の規模は東西350m、南北700m、面積20万平方mと広大であり、九戸城や三戸城に次ぐ規模です。大館・八幡館・新城館・西館・北館の5つの館(郭)によって構成されており、堀によって区画されています。北西を除く三方が、比高差約40mの断崖となっており、見晴らしがよく、防衛するには最適といえます。また、八幡館と大館の間の堀にはのちに鹿角街道が通っており、交通の要衝でもありました。平成9年度から16年度にかけて部分的な発掘調査が行なわれ、中世の建物跡や柱穴、陶磁器・釘・鉄鍋・古銭などがみつかっています。陶磁器には、中国から輸入された青磁や白磁、愛知県で作られた天目茶碗などの希少品も見られ、当時の領主の生活が垣間見えます。

このように広大な規模・交通の要衝・出土品などから浄法寺城を居城としていた浄法寺氏は南部藩の重臣であり、強大な力を持っていたことがわかります。現在の浄法寺城は多くがタバコ畑になっていますが、堀や館跡はきれいに残っており、当時の浄法寺城の姿がしのべれます。



堀や館跡から当時の浄法寺城がしのべれます

こみゅにTeaたいむ

44回目

郷土芸能祭をご覧ください

2月13日(日)に『第28回二戸市郷土芸能祭』が開催されます。各地域に古くから伝わる郷土芸能は、私達のご先祖様から受け継いできた宝です。舞、衣装、面などで地域の歴史と伝統を生き生きと伝えてくれます。それぞれの地域の歴史と伝統、また昔から伝えられてきたメッセージを肌で感じてみませんか？

今回は、特別ゲストとして岩手県立伊保内高等学校郷土芸能委員会が出演します。伝統とともに、若さが持つ躍動感も感じることができるでしょう。

年に一度の機会ですので、ぜひご覧ください。

『第28回二戸市郷土芸能祭』

日時 2月13日(日) 開演午前10時～

場所 二戸市民文化会館大ホール

入場料 無料

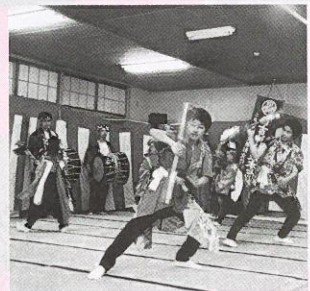
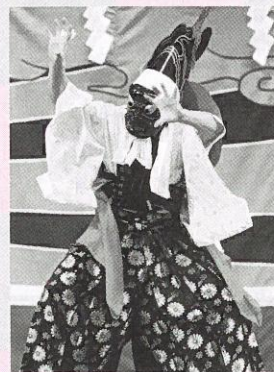
主催 二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会

出演団体 金田一大神楽保存会／坂本七ツ物保存会

／金田一神楽保存会／天台寺舞楽保存会／下斗米山伏神楽保存会／吞香稲荷神社神代神楽保存会／上米沢鹿踊り保存会／駒ヶ嶺新山神楽保存会／深山神社神楽保存会／武内神社神楽保存会

特別出演 岩手県立伊保内高等学校郷土芸能委員会(九戸村)

※出演団体は都合により変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。



(写真左上) 駒ヶ嶺新山神楽 (写真右上) 坂本七ツ物保存会 (写真下) 伊保内高等学校郷土芸能委員会

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線651)まで